

豪雨後伐採枝で手染め ハンカチ、足羽川の桜色

福井の和雑貨店で人気

チップ練りお香も

2004年の福井豪雨で被害を受けた足羽川の堤防強化工事に伴い、一部撤去された桜並木。伐採された小枝を再利用し、和雑貨店の「和



足羽川の桜の樹皮から製作したハンカチとお香＝福井市大手3丁目の「和MONOYA TAKIZAWA」

香が人気を集めている。滝沢さんは豪雨から3年後の07年冬、足羽川のソメイヨシノが一部撤去されることを知った。昔から3人の息子と遊んだり、弁当を広げて食べるなどした思い出深い足羽川の桜を「何らかの形で残したい」と県に引き取りを申し出て、段ボール8箱

分の枝を分けてもらった。商品の製作は、桜染め商品を製造販売する福岡県の業者に依頼。小枝の樹皮を30〜40日かけて煮詰めて作った液体で綿のハンカチを染め、薄桃色の優しい色合いに仕上げた。職人の手染めのため、1枚1枚色合いが異なる。お香は、枝を細かいチップ状にして練り込んであり、桜の甘い香りが広がる。

商品は08年春から販売しており、県外へ嫁ぐ人や転勤で福井を去る人への贈り物として買っていく人も多い。ただ「原料」の枝は6年前に譲り受けたものしかなく、来年春ごろにはストックがなくなる見通し。滝沢さん